

# 仙台空港及び周辺地域の将来像（素案）

平成24年9月

経済商工観光部富県宮城推進室

# 目次

1	策定趣旨 .....	1
2	将来像の位置づけ .....	1
3	目標指標 .....	1
4	仙台空港及び空港周辺地域の将来像.....	2
	ー東北のグローバルゲートウェイー	
5	仙台空港の将来像.....	3
	ー日本初の民間運営による地方中核空港ー	
6	空港及び空港周辺地域の4つの将来像.....	4
(1)	東北のニューツーリズム拠点 .....	4
(2)	東北基幹産業の国際戦略ビジネス拠点.....	6
(3)	東北のグローバルロジスティクス拠点.....	8
(4)	首都圏・アジアのバックアップ拠点 .....	9

## **1 策定趣旨**

東北の発展を支えるゲートウェイである仙台空港の乗降客数は、世界的な経済不況等により平成20年以降大きく減少しており、貨物取扱量も平成12年度を境に減少傾向にある。

加えて、平成23年3月11日に本県を襲った東北地方太平洋沖地震とその後続いた大津波により、仙台空港のみならず周辺地域も極めて甚大な被害が生じ、現在、その復興に鋭意取り組んでいる。

一方、国においては航空系事業と非航空系事業の一体化及び民間の知恵と資金の導入による地域の特性を活かした戦略的な空港運営が、利用者数の増大、地域経済の活性化等につながるとする内容の検討報告が昨年7月にとりまとめられ、現在、関連法案が国会に提出されている。

こうした状況を踏まえ、民の力を最大限に活かし、仙台空港及びその周辺地域を国内外からヒト・モノ・資金を惹きつけるグローバルゲートウェイとして再構築していくことが、復興のシンボルとして本県復興の息吹の発信につながっていくことから、県では、官民が共通の目的意識を持って取り組む計画として、本年7月に「みやぎ国際ビジネス・観光拠点化プラン」を策定した。

本将来像は、官民が共通の目的意識を持って「みやぎ国際ビジネス・観光拠点化プラン」に掲げる施策及び事業に取り組んでいくために、本県の目指す仙台空港及び仙台空港周辺地域のあるべき将来の姿を示すものである。

## **2 将来像の位置づけ**

官民が共通の目的意識を持って「みやぎ国際ビジネス・観光拠点化プラン」に掲げる施策及び事業に取り組んでいくための目標、指針となるものである。

## **3 目標指標**

おおむね30年後の仙台空港及びその周辺地域の活性化の目標として、ピーク時の約2倍となる次の目標指標を設定する。

- ・仙台空港乗降客数：600万人／年（平成18年度：約339万人）
- ・仙台空港貨物取扱量：5万トﾝ／年（平成12年度：約2.4万トﾝ）

## 4 仙台空港及び空港周辺地域の将来像

### —東北のグローバルゲートウェイ—

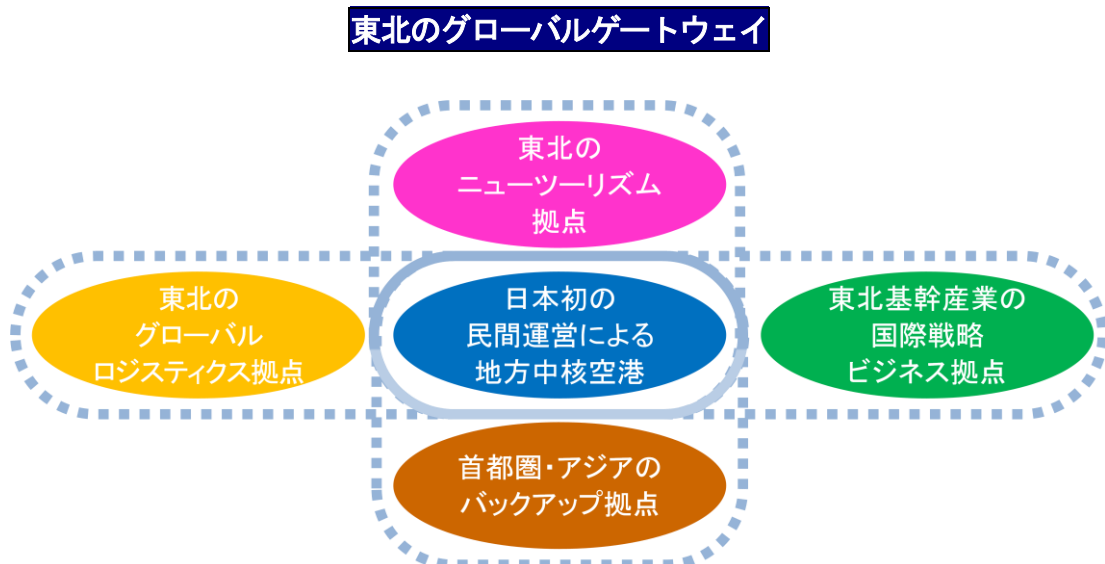
「みやぎ国際ビジネス・観光拠点化プラン」（2012年7月）に示されているように、仙台空港及び空港を含んだ周辺地域は、民の力を最大限に活かし、国内外からヒト・モノ・資金を惹きつける「東北のグローバルゲートウェイ」として本県の本格的な復興を牽引する地域に発展していく。

#### 〈空港の将来像〉

仙台空港は、空港運営権者となる民間の知恵と資金を最大限に活用し、顧客志向に立脚した機動的な空港運営により、成長著しいアジアの市場を取り込みながら、東北地方の経済活動を支える「日本初の民間運営による地方中核空港」に発展していく。

#### 〈空港及び空港周辺地域の将来像〉

空港経営改革による活性化を通じてヒトの流れが創出された空港及び空港周辺地域は、世界の観光、ビジネス、物流需要を受け止め、「東北のニューツーリズム拠点」、「東北基幹産業の国際戦略ビジネス拠点」、「東北のグローバルロジスティクス拠点」及び「首都圏・アジアのバックアップ拠点」という4つの拠点を形成し、復興のシンボルとなる地域として発展していく。仙台空港の活性化と4つの拠点形成がシナジー効果を生むように一体的に推進することにより、成長する東アジアの活力を引き込み、東北全体への波及を通じて、本県の更なる発展が図られていく。



図表 空港・空港周辺地域の将来像（全体イメージ）

## 5 仙台空港の将来像

### —日本初の民間運営による地方中核空港—

民間の知恵と資金を最大限に活用し、顧客志向に立脚した機動的な空港運営が行われるようになった仙台空港は、これまでの空港機能に加えて以下に掲げる機能を充実・強化させることにより、我が国における最初の官民連携（PPP）による自立的な民間運営空港として全国のモデルとなる地方中核空港へと発展していく。

#### ○ LCC 等航空ネットワーク機能の拡充・強化

仙台空港は、中国人個人観光ビザ発給要件の緩和や数次ビザ発給等の好機を生かして、友好都市長春を始めとした中国各都市との路線・便数の拡充を図りながら、FSA路線・便数の充実はもとより、国内外 LCC 路線の新設による新たな旅行需要を取り込み、多くの観光客でにぎわう空港に発展していく。

#### ○ 空港内の時間消費・ビジネスサポート機能の充実・強化

仙台空港は、時間待ちの旅客が快適に過ごせるための小売、飲食、マッサージなどの商業サービス施設・レクリエーション施設などの魅力あるテナントを誘致するとともに、ビジネスセンター、高速無線インターネットサービスなどビジネス客が効率的に業務を行うためのサポート機能を充実させることなどにより、多くの旅客が利用する空港に発展していく。

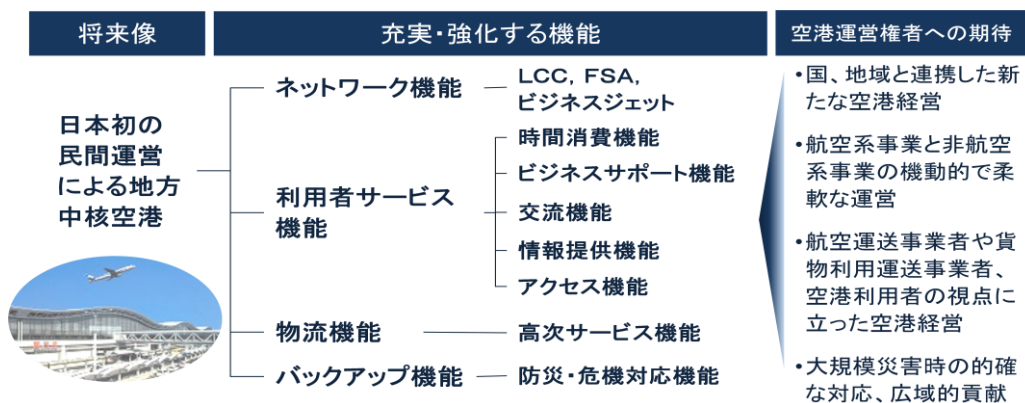
#### ○ 東北の物流拠点としての機能の充実・強化

仙台空港は、着陸料の引き下げや運用時間の延長を検討しながら、周辺の物流施設と連携した高次サービスの展開により、東北全体の産業基盤として機能する物流拠点空港に発展していく。

#### ○ バックアップ機能の充実・強化

津波・浸水対策の推進により災害に強い安全な空港となり、大規模災害発生時においては、救援物資・人員の中継や後方支援を行うバックアップ空港に発展していく。

### —地方中核空港のイメージ—



図表 仙台空港の将来像と充実・強化する機能

## 6 空港及び空港周辺地域の4つの将来像

### (1) 東北のニューツーリズム拠点

仙台空港及び空港周辺地域は、国内外からの観光客が一定時間滞留する場となり、魅力的な時間消費の場としての機能が整備され、また、テーマ性が強く、人、自然、伝統文化とのふれあいなど体験的要素を取り入れた新しいタイプの旅行「ニューツーリズム」に着目した東北地方のニューツーリズムのゲートウェイとしての機能が強化されていく。

#### ○ 仙台空港：「LCC路線も充実した東北のツーリズムの拠点空港」

仙台空港は、東北各地の観光情報を収集し、各地に向かう観光バスや鉄道に乗り換える、広域交通の結節点としての役割を果たす。民間の空港運営権者による市場ニーズにあわせた柔軟な空港運営により、多くのLCCが集まり、特に海外からのインバウンド観光客の玄関口となる東北のツーリズムの中核拠点空港に発展していく。

#### ○ 周辺地域：「新国際ツーリズムエリア」

仙台空港を起終点とする観光客の流れの増大とともに、空港周辺地域はエアポートホテルやDFS(免税店)、漁港の水産朝市(フィッシャーマンズワーフ)、貞山堀クルーズ、先端観光農園、震災に係るメモリアルパークなど観光客を惹きつける「新国際ツーリズムエリア」に発展していく。

#### ○ 東北地方：「多目的ツーリズム連携(観光資源の連携による魅力の向上)」

東北地方には、世界遺産(白神山地、平泉)、日本三景松島等の日本有数の観光地、夏の祭りや豊富な食材、豊かな自然、産業施設などの魅力ある観光資源が存在する。さらに、東日本大震災の被災地は、人類が災害への備えを学ぶ貴重な場としての役割もあることから、こうした観光資源を活かした様々なツーリズムや災害への学習活動が連携し、これまで以上に国内外から多数の人が訪れる地域へと発展していく。



図表. 東北のニューツーリズム拠点

#### 【実現に向けての当面の取組】

東北のニューツーリズム拠点の形成に向け、東北の魅力を発信するなど効果的なプロモーションを実施し、観光地としての知名度向上を図りながら、国内はもとより、数次ビザ発給により今後増加が見込まれる中国人を中心として東アジア各地からの誘客を図っていく。銀聯（ぎんれん）カードの対応店舗の拡大や民間投資による DFS の誘致を進め、インバウンド旅客による地域での消費拡大を促す仕掛けを取り入れる。

## (2) 東北基幹産業の国際戦略ビジネス拠点

自動車関連産業、高度電子機械産業等が集積し、基幹産業のグローバル展開が図られ、空港はビジネスジェットの就航やビジネスセンター等のビジネス交流基盤が整備され、周辺地域等においても関連産業の営業機能や研究機能等が集積する国際戦略ビジネス拠点に発展していく。

### ○ 仙台空港：「国際ビジネス拠点空港」

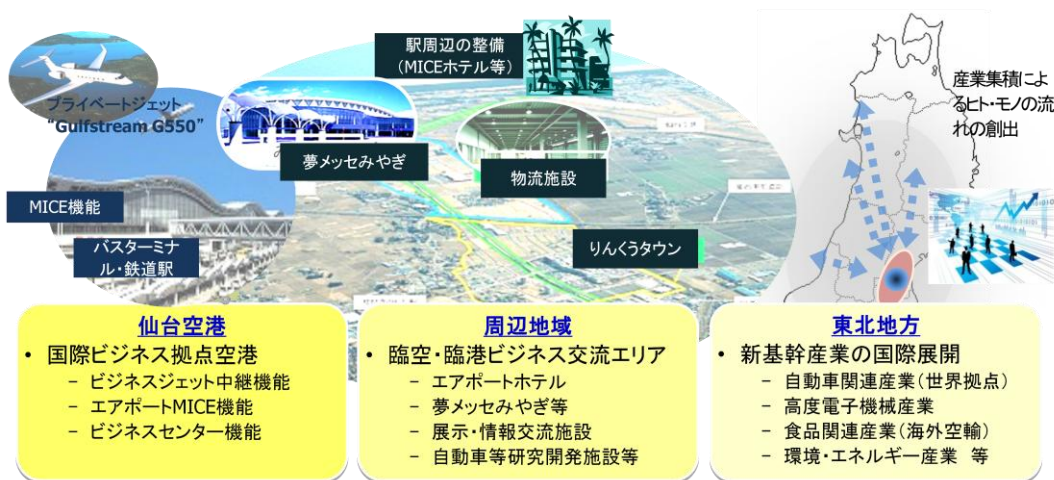
仙台空港は、中国と北米の中間にある地理的特性を活かしたビジネスジェットの中継拠点となり、また、搭乗便を待つビジネス客が有効に業務を行えるビジネスセンター等を整備することによって、自動車関連産業等の進出企業や海外事業を展開する地元企業に関わる多数のビジネス客の往来する国際ビジネス拠点空港に発展していく。

### ○ 周辺地域：「臨空・臨港ビジネス交流エリア」

空港周辺地域は、進出企業や地元企業が商品展示・商談を行える施設、ビジネスジェットを利用するVIPや企業関係者向けの会議室、ビジネスラウンジを備えた施設、忙しいビジネス客が利用できるエアポートホテル（一時滞在機能を含む）、自動車関連産業等の基幹産業の研究開発施設などが立地し、自動車や防災などをテーマとしたMICEの「夢メッセみやぎ」での開催等と相まって「臨空・臨港ビジネス交流エリア」として発展していく。

### ○ 東北地方：「新基幹産業の国際展開」

仙台空港及び空港周辺地域が、国際ビジネスの場としての拠点性を高めることによって、東北地方全体においても、今後集積と発展が予想される自動車関連産業や高度電子機械産業、輸出増大が期待されている食品関連産業、次世代成長産業として位置づけられる環境・エネルギー産業などの新基幹産業のグローバル化が進展していく。



図表. 東北基幹産業の国際戦略ビジネス拠点



**【実現に向けての当面の取組】**

新産業の誘致とともに、既存企業の仙台空港からのビジネス利用を促すキャンペーン策等を実施する。進出企業や地元企業のビジネス客に利用してもらえるよう、航空ネットワークの拡充などの利便性向上に取り組むとともに、自動車や防災などをテーマとしたMICEを、東北最大級の展示場である夢メッセみやぎ等で開催し、多くのビジネス客を呼び込み、MIYAGIの安全・安心を世界に発信していく。

### (3) 東北のグローバルロジスティクス拠点

空港と港湾が近接する強みや民間の空港運営権者による戦略的な空港運営を通じて、東北各地からモノが集散する「東北のグローバルロジスティクス拠点」に発展していく。

#### ○ 仙台空港：「東北の物流拠点空港」

仙台空港は、民間の空港運営権者による着陸料等物流コストの低廉化や貨物専用便の誘致、地元産品の海外輸出事業との連携（フォワダーとの連携）による取扱貨物の増加などの戦略的な経営を通じて、東北各地から航空貨物が集まる物流拠点空港に発展していく。

#### ○ 周辺地域：「マルチモード物流エリア」

空港、港湾が近接し、高速道路、鉄道の交通条件に恵まれた周辺地域は、農産物などの流通加工施設、低温管理保管施設などはもとより、保税工場や保税倉庫、中継加工機能など、多様な物流関連機能が集積し、陸海空物流が連携した「マルチモード物流エリア」に発展していく。

#### ○ 東北地方：「販路拡大・産業のグローバル化」

電子部品や農水産品の輸出入に関する物流について、空港経営者、フォワダー、生産者が協力して仙台空港を利用する戦略を取ることによって、大都市の空港に比べてスピーディでリアルタイムの物流チャネルが生まれ、販路拡大や産業のグローバル化など物流を増やす地域戦略を取ることによって空港の貨物利用が高まり、ひいては空港及び空港周辺地域のグローバルロジスティクス拠点が形成されていく。



図表. 東北のグローバルロジスティクス拠点

#### 【実現に向けての当面の取組】

宮城・東北の農水産物の海外への試験的輸出に取り組んでいく。

#### (4) 首都圏・アジアのバックアップ拠点

国の中央防災会議の首都圏直下地震対策についてまとめた中間報告書（平成 24 年 7 月策定）及び閣議決定された日本再生戦略（平成 24 年 7 月策定）に、首都機能の代替拠点の 1 つとして仙台が位置づけられるとともに、途上国における防災対策の支援が謳われていることを踏まえ、仙台空港及び周辺地域は、震災を経験した地域として国内外からの緊急時対応のための機能を備えた首都圏・アジアのバックアップ拠点として発展させていく。

##### ○ 仙台空港：「バックアップ拠点空港」

仙台空港は、津波・浸水対策等の耐災機能を強化するとともに、それを活かした災害情報センター機能、災害救援機受入機能を整備することにより、震災を経験した地域として、今後 30 年間に 70%の確率で直下型地震が起こると言われている首都圏や、地震、津波、火山爆発、洪水、台風などの自然災害の多いアジア諸国の災害発生時に支援を行う「バックアップ拠点空港」を形成していく。

##### ○ 周辺地域：「災害バックアップエリア」

バックアップ拠点空港としての機能を発揮させるため、仙台空港周辺地域には、平時に必要な量の救援物資をストックしておく備蓄施設、発災時に国内外からの救援物資の集積・仕分けを行う施設、災害バックアップ面での研究を行う防災研究施設、災害医療や救援に係る人材を訓練・育成するための機関などを集積された「災害バックアップエリア」を形成していく。

##### ○ 首都圏・東北地方：「災害に強い産業等の集積」

仙台空港及び周辺地域が、首都圏・アジアのバックアップ拠点となることにより、災害に強い国土づくりに貢献するとともに、東北全体において、耐災性に優れた製造業、農水産業・食品関連産業、エネルギー供給業、物流産業、防災関連産業などの災害に強い産業や災害バックアップに不可欠な産業が集積していく。



図表. 首都圏アジアのバックアップ拠点

#### 【実現に向けての当面の取組】

実現に向けて、仙台空港の津波・浸水対策を推進する。